

疎化が進む中、この村に暮らす人々が、生涯現役で生きがいを持つて働ける状況を作る為「榎小川の庄 おやき村」を61年に発足し現在に到っている。一集落一品作りの考えで、この村にある伝統食を掘り起こし、お年寄りが得意とする「おやき」を商品開発。この開発の成功で、農産物の地産地消、いつまでも定年なしの職場の確保、直売方式による販売と、まさに六次産業そのものであった。今や、おやき関連で年商9億円を目指す地場産業が、成長を続けるということは、社会貢献・地域活性の点からも賞賛できる。これを機にわが村にも掘り起こす物が無いか、村民皆様と共に考えたい。

研修③ 山梨県中央市（豊富地区）における地域活性化

前の2つの村と違い、のびやかな田園風景地帯、交通量、人の賑わいが見受けられるようになったが、あ

らゆる農家の減少「養蚕農家」に、危機感を持ったのは変わりがなかった。この地区における活性化の取り組みは、行政主導による農業振興策の感が強く打ち出されている。地区では、環境と循環に重点を置き、農産物を生産し第三セクター「財」シルクの里振興公社の道の駅で直売するシステム。一期計画を4年間あわせて三期「12年間」計画で、地域の六次産業化に到ったのは、地域と行政が一緒になり、知恵を出し合い協力し合った結果である。



特産品を販売する「味工房」

関東・関西 南阿蘇村人会開催

関東南阿蘇村人会が、平成22年11月13日東京霞が関の東海大学校友会館で行われました。村からも議員7人を含む12人が参加し、関東在住の村人会のメンバーらと一年ぶりに再会し旧交を温めました。

また、ちょうど銀座熊本館で開催されていました「南阿蘇フェア」にも参加してきました。

翌日、1月14日は関西村人会が大阪の箕面観光ホテルで行われました。

関西村人会での総会では、発会時よりお世話いただきました福原会長が職を辞退されたため、急きよ役員改選を行い、これまで事務局長として汗を流してこられた「田上源一」氏が満場一致で次期会長に認定され、新会長に就任されました。

和気あいあいの交流会の中で、次回からは村内の各団体からも村人会へ参加したらとの意見がありました。

関西村人会
交流会



右下は、会長に
就任された田上氏



関東村人会
交流会

